

室蘭市観光振興計画

—— 訪れた人だけが出会える おっと!室蘭 ——

(本編)

令和2年3月

室蘭市



目次

序章.....	1
1. 計画策定の趣旨.....	1
2. 計画の目的.....	2
3. 計画の位置づけ.....	2
第1章 計画策定の方向性.....	3
1. 観光分野における動向.....	3
2. 室蘭観光の現状及び課題.....	7
3. 計画の方向性.....	9
4. 計画の構成.....	10
5. 計画の期間.....	10
第2章 室蘭観光の将来像.....	11
1. 重点観光エリアの設定.....	11
2. 重点観光エリア別の将来像.....	12
第3章 観光振興計画の推進.....	15
1. 連携体制のあり方.....	15
2. 計画の管理・評価手法.....	17
参考資料.....	20
1. 計画策定に向けたヒアリング対象事業者.....	20
2. ヒアリングより得られた主な意見.....	21

序章

1. 計画策定の趣旨

本市では、平成元年に「室蘭市観光振興計画」を策定して以降、平成10年、平成21年とその内容を更新してきました。

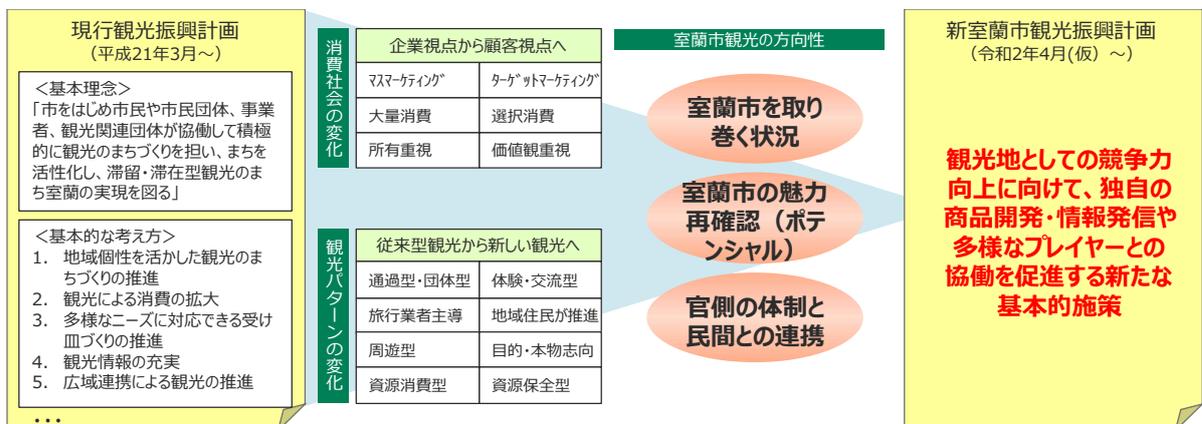
前回計画を更新した平成21年は、少子高齢化やグローバル化など、社会環境が大きく変化している状況にあり、観光分野においては政府が平成19年度に策定した「観光立国推進基本計画」を受けて、インバウンド誘致に関する様々な取組が実施され始めた時期でした。その後、国内全体の訪日外国人は、平成21年に約680万人だったものが、平成30年は約3,190万人と大幅に増加しています。

また、国内旅行については、団体旅行の需要が低下して全体的には旅行需要は停滞気味ですが、一方で、インターネットサービスの拡大により個人の嗜好にあわせた個人旅行等、多様な旅行スタイルがでてきており、これらの個人観光客を中心とした新しい旅行の需要が増加するとともに、旅行ニーズも、いわゆる物販等のモノ消費から、その地域に行かなければ経験することができない歴史体験・自然体験などのコト消費へとシフトしています。

本市では、令和元年5月に、周辺自治体と共に「本邦国策を北海道に観よ！～北の産業革命「炭鉄港」～」が日本遺産に認定され、観光資源としての活用が期待されています。また、平成31年4月には、道の駅「みたら室蘭」がリニューアルし、近年は年に数回、大型客船が室蘭港に入港するなど、ベイエリア全体の状況も変化しています。

このような観光を取り巻く環境が大きく変化している中で、本市の観光産業を強化していくために、新しい観光振興計画を策定しました。

図表1. 計画策定の考え方



2. 計画の目的

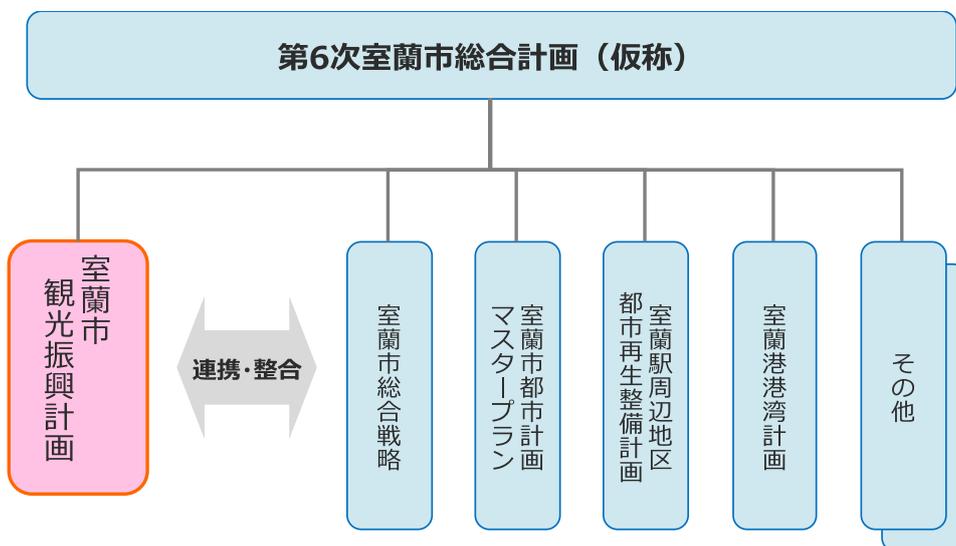
本市の観光振興を進めるためには、市、市民、市民団体、事業者、観光関連団体等が、共通認識を持ちつつ、連携していくことが不可欠です。特に、北海道の場合は、観光資源が多いため、地域の特長を踏まえて、限られた資源の中で、戦略的に推進することが必要になります。また、観光資源を外部に発信するだけでなく自分たちが地域の魅力を再確認し、愛着を持つことも重要です。

本計画の策定において、このような観光振興にむけて地域が共通認識を持つとともに、今後の観光振興の取組の方向性を示すことを目的としています。

3. 計画の位置づけ

本計画は、現在策定を進めている第6次室蘭市総合計画を下支えする個別計画の一つとして位置づけ、第6次室蘭市総合計画の内容を踏まえて策定しています。また、関連する個別計画とも整合を図ったものです。

図表2. 上位計画とその他計画との関連

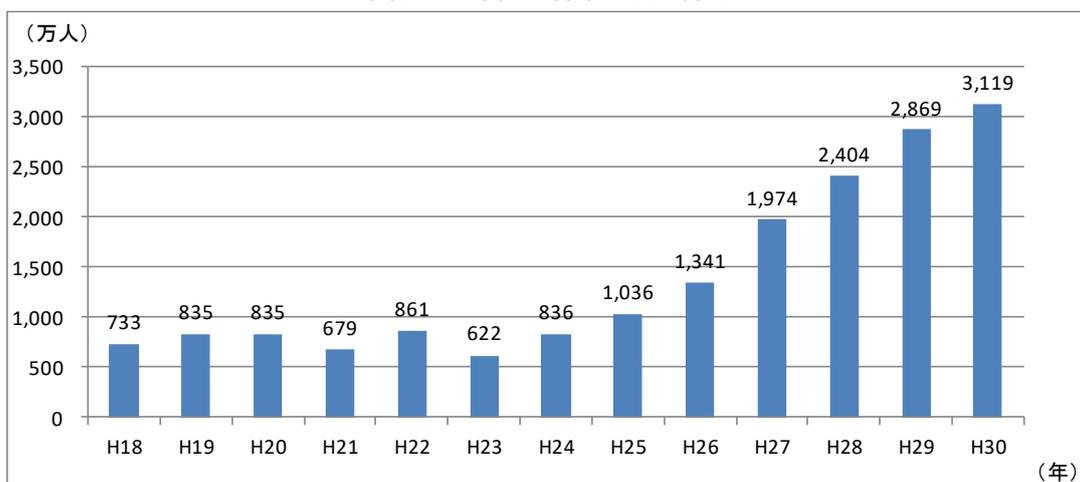


第1章 計画策定の方向性

1. 観光分野における動向

わが国の観光産業は、平成18年12月に観光立国推進基本法が成立して以降、特に訪日外国人の拡大を目指して、様々なプロモーションや政策を実施してきました。その結果、訪日外国人観光客数は、平成18年の約733万人から、平成30年度は、3,119万人と大幅に増加しています。また、訪日外国人観光客の旅行消費額については、平成24年から平成30年で約4倍に増加しており、我が国の成長産業の柱として位置づけられています。

図表3. 訪日外国人観光客数



出典：観光白書（令和元年度版）

図表4. 訪日外国人旅行者の消費額

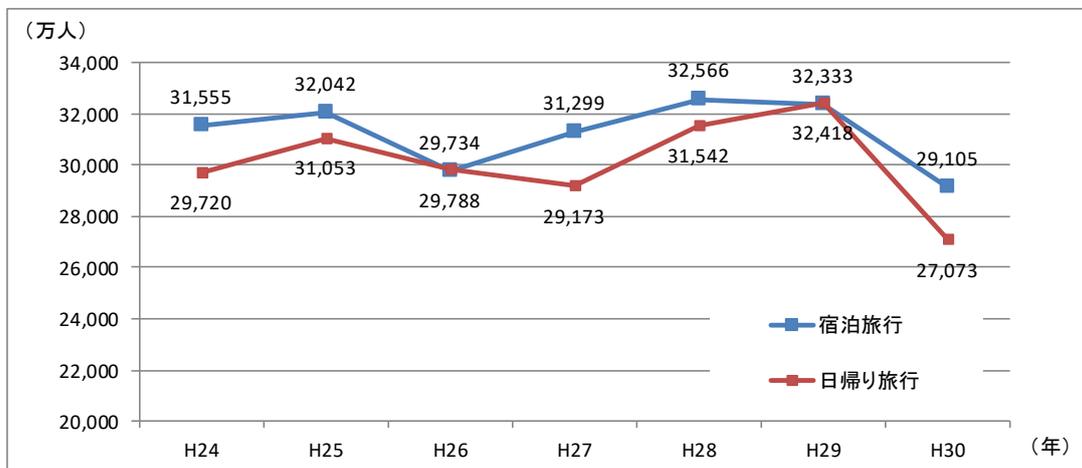
	平成24年 (億円)	平成30年 (億円)	倍
訪日外国人旅行消費額	10,846	45,189	4.2
宿泊費	3,713	13,212	3.6
飲食費	2,229	9,783	4.4
交通費	1,179	4,674	4.0
娯楽サービス費	293	1,738	5.9
買物代	3,406	15,763	4.6

出典：観光白書（令和元年度版）

一方、国内旅行については、平成26年以降増加傾向にありましたが、平成30年度は旅行者数が削減に転じています。また、平成27年から平成29年度までは日帰り旅行者数が大きく増加していることも特徴です。国内旅行の目的については、「自然の風景を見る」、「温泉浴」、「名所・旧跡を見る」というものが増えています。また、国内旅行者消費額に

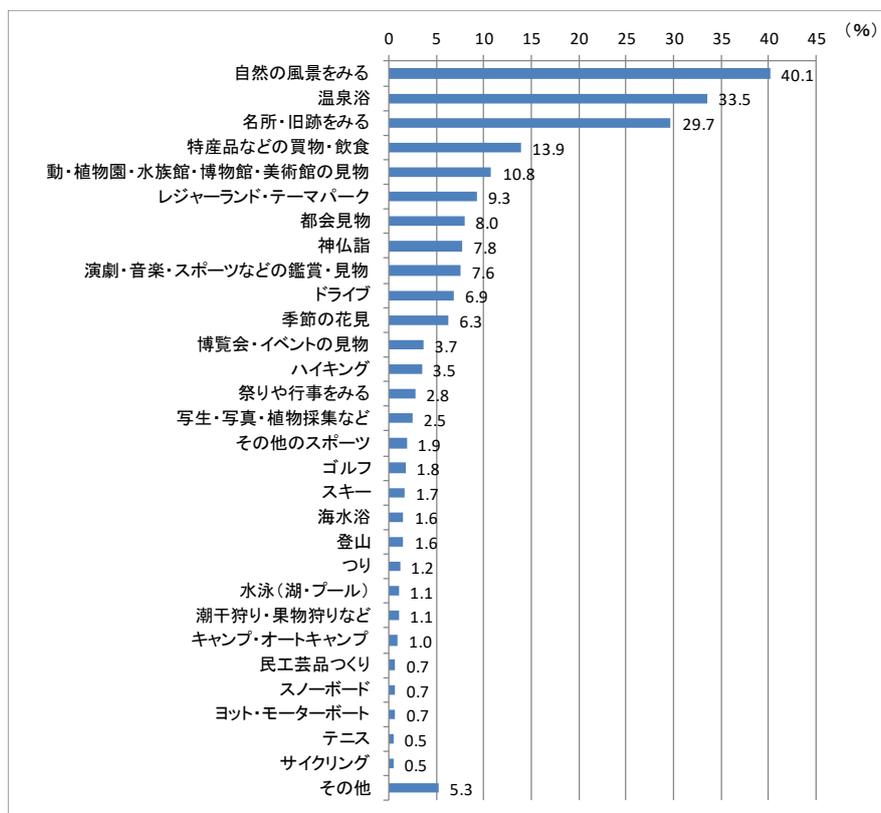
については、年間約 20 兆円で横ばいとなっています。

図表5. 日本人国内宿泊旅行延べ人数、国内日帰り旅行延べ人数の推移



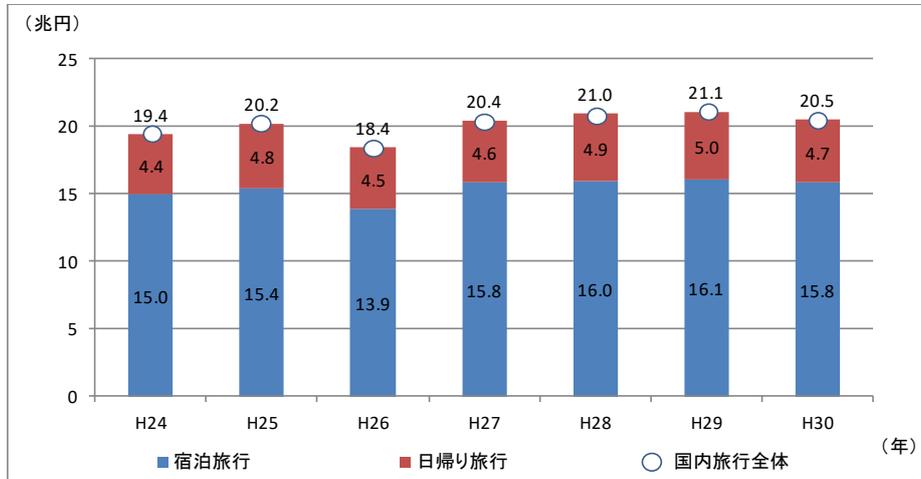
出典：観光白書（令和元年度版）

図表6. 宿泊観光の旅先での行動



出典：日本観光振興協会「観光の実態と志向（平成 30 年版）」

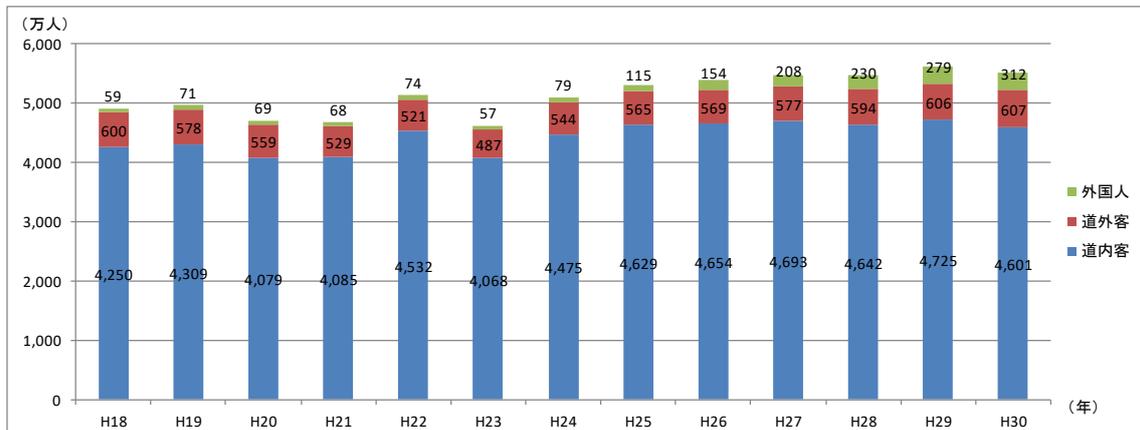
図表7. 日本人国内旅行消費額の推移



出典：観光白書（令和元年度版）

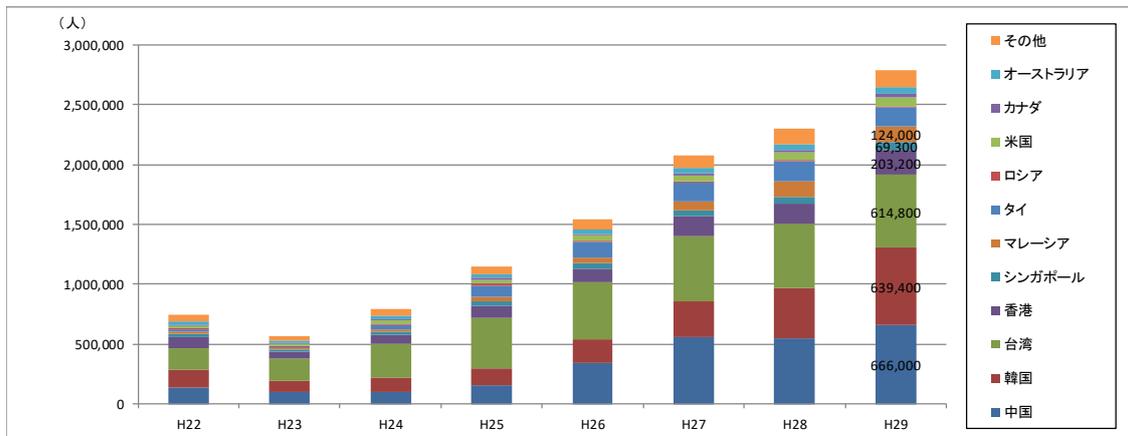
次に、北海道の動向を見ると、入込客数については、平成30年度は減少していますが、平成23年から平成29年までは増加傾向にあります。特に、外国人については、平成30年も含めて増加傾向にあります。また、来道する外国人として、中国、韓国、台湾等のアジアからの観光客が多くなっています。

図表8. 北海道における入込客数



出典：北海道観光入込客数調査報告書

図表9. 外国人来道者の推移



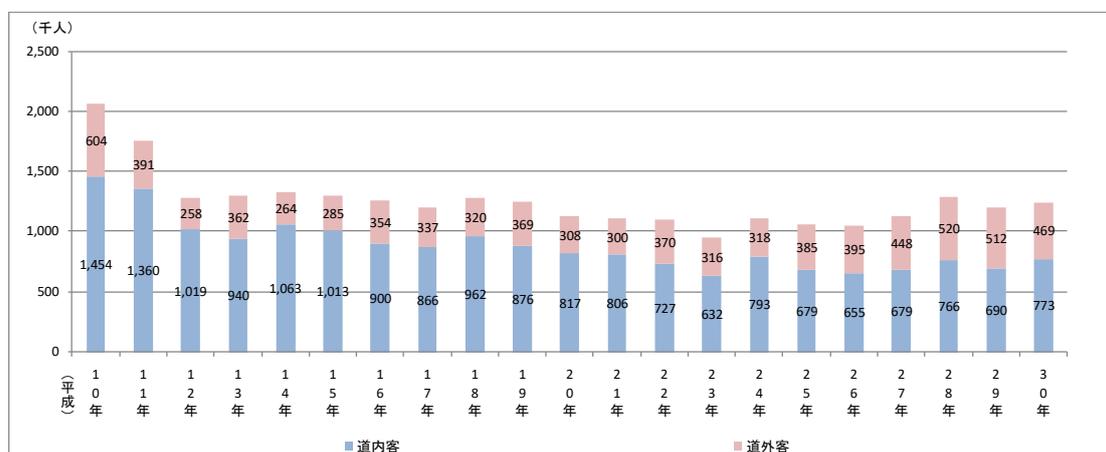
出典：北海道観光入込客数調査報告書

2. 室蘭観光の現状及び課題

室蘭市においては、白鳥大橋が完成した平成10年をピークに観光客が減少していましたが、平成23年を底に、その後は増加傾向にあります。また、道内、道外別の観光客数をみると、白鳥大橋ができた平成10年の頃は道内からの観光客が圧倒的に多い状況でしたが、近年道外の割合が増加し、約40%近くは道外からの観光客となっています。宿泊、日帰り別にみると、基本的には日帰り客が多い状況となっています。また、訪日外国人については、増加傾向にありますが、まだ道内全体の中での割合は小さい状況です。

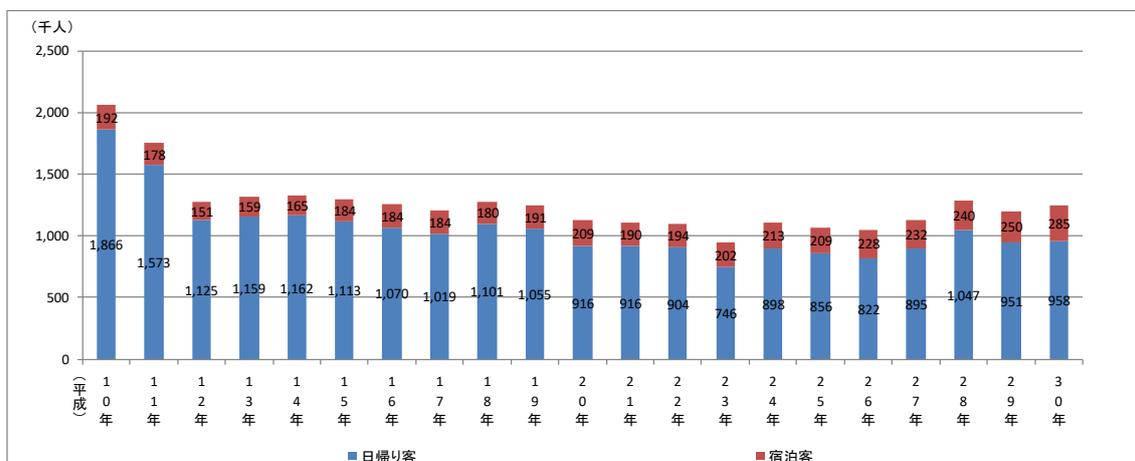
さらに、市内の主要施設でみると、道の駅「みたら室蘭」への来客数が増加していることが特徴で、その他については横ばいか減少傾向にあります。

図表10. 観光客数（道内、道外別）



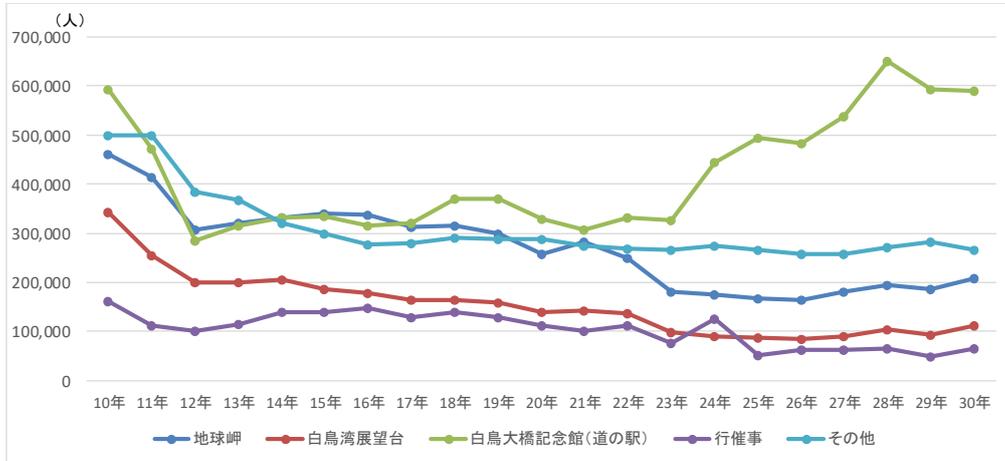
出典：室蘭市経済部観光課

図表11. 観光客数（宿泊、日帰り別）



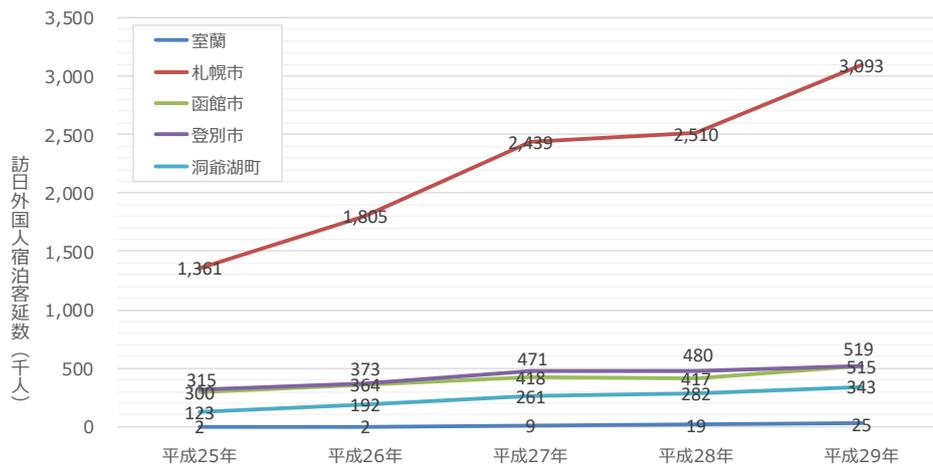
出典：室蘭市経済部観光課

図表12. 市内の主要施設の入込客数



出典：室蘭市経済部観光課

図表13. 室蘭市の訪日外国人の推移



出典：北海道経済部観光局（北海道観光入込客数調査報告書）

3. 計画の方向性

(1) 基本理念

少子高齢化・人口減少が進む地域においては、地域の外から「人」と「財」をもたらす「観光」が注目されています。また、人口減少の対策として交流人口の拡大が重要であることも踏まえ、本市においても、観光客の滞在・消費を促し、地域経済に循環させる取組を「稼ぐ観光」と定め、地域経済の活性化を目指します。

一方で、観光客のニーズも企業視点の発地型観光から顧客視点の着地型観光への変遷を経て、特に近年では歴史・文化や日常生活を体験する「体験型観光」が関心を集めており、各観光地では観光客の獲得に向けた様々な差別化戦略を打ち出しています。

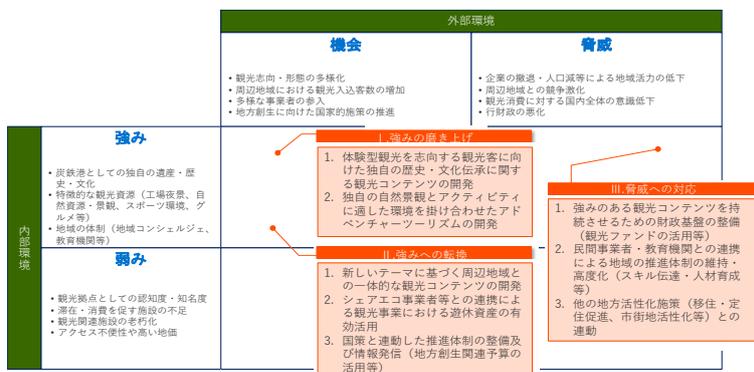
このような状況のなかで「稼ぐ観光」の実現に向けて観光客を誘引するために、民間企業と協働した独自性・競争性の高い商品の開発や、顧客のニーズに適応したプロモーション等の取組を本計画の施策として定めます。

(2) 「稼ぐ観光」の実現に向けて

本市は「炭鉄港」としての独自の遺産・歴史・文化といった「強み」を有する一方で、観光地としての認知度が低い、多勢の観光客を受け入れるには宿泊施設や飲食店が不足しているといった「弱み」を抱えています。また、外部環境に目を向ければ、観光志向やニーズの多様化、周辺地域における観光客の増加といったように市の観光振興にとっての「機会」が増す一方で、市内の企業の撤退や人口減に伴う地域活力の低下といった「脅威」に晒されています。

これらの事象を踏まえ、以下のように「強み」をさらに磨き上げ他の地域との差別化を図ること（強みの磨き上げ）、「弱み」を認識し、様々なプレイヤーと連携することで「強み」へと転換すること（強みへの転換）、また、「強み」を維持しながらも「脅威」へと立ち向かうこと（脅威への対応）の3点を、観光振興に向けた施策を策定する際の基本的な考え方として設定します。

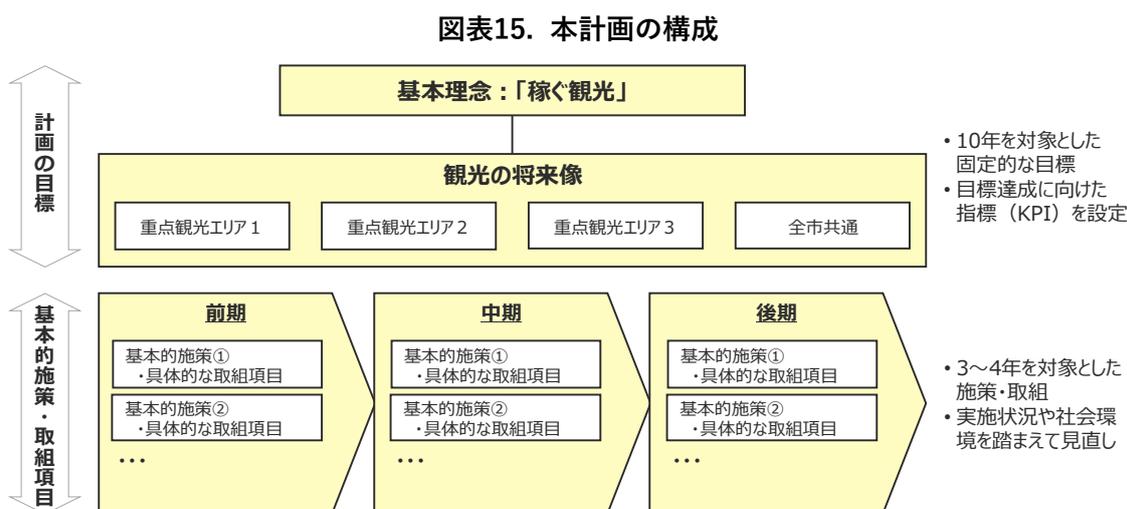
図表14. 室蘭市の特長と目指すべき方向性



4. 計画の構成

本計画においては、まず基本理念である「稼ぐ観光」の実現に向けて、向こう10年を見据えた観光都市としての将来像を固定的な目標として設定します。

さらに、その将来像を下支えするための基本的施策及び具体的な取組項目を、対応時期に応じて3期（前期、中期、後期）に分けて整理したうえで、個別に実施状況等を管理・評価します。



5. 計画の期間

前述の目標達成に向けた本計画の期間は概ね10年とします。

なお、観光志向や旅行スタイルの多様化、インバウンドの急増など、観光を取り巻く社会環境もめまぐるしく変化していることから、具体的な取組項目の実施状況等も勘案したうえで、必要に応じて基本的施策及び取組項目の見直しを行うこととします。

第2章 室蘭観光の将来像

1. 重点観光エリアの設定

本市においては、人が集まるにぎわいのエリア、歴史・文化遺産が集積するエリア、豊かな自然に恵まれたエリアなど、地域別に様々な性質を有しており、観光振興に向けても各々の性質を踏まえた個別具体的な施策を講じることが効果的です。

本計画においては、祝津・絵鞆エリア、地球岬周辺エリア、及び中央エリアの3地域を「重点観光エリア」と位置づけ、各々について観光振興に向けた将来像を設定します。

図表16. 本計画における重点観光エリア



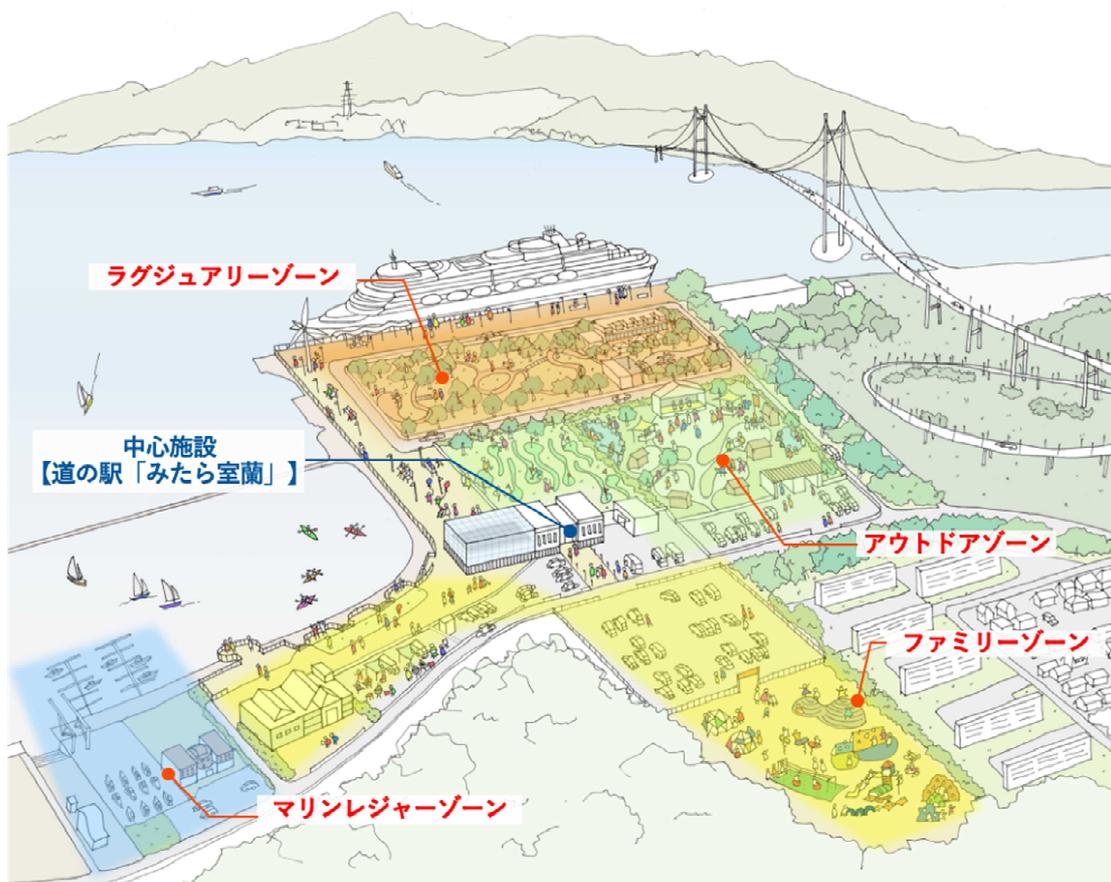
2. 重点観光エリア別の将来像

(1) 祝津・絵鞆エリア ～海に親しむレクリエーションエリア～

道の駅「みたら室蘭」を中心に、市立室蘭水族館、温泉施設ゆらら、エンルムマリーナ室蘭などの施設が存在する祝津・絵鞆エリアは地元住民や市外からの観光客が多数訪れています。特に道の駅「みたら室蘭」は、市内の主要観光スポットの中でも観光入込客数が最も多く、本エリアは市内観光の中核的拠点と位置づけられます。また、周辺には白鳥大橋や市街地を一望できる祝津公園などの多種多様な観光スポットを有しています。今後は世界最大クラスのクルーズ客船も着岸可能な祝津バースの整備も行われ、さらなるにぎわいが生まれることが見込まれます。

現時点では市立室蘭水族館等の施設の老朽化や飲食・宿泊機能の不足といった課題を抱えていますが、民間の資金やノウハウを活用し、みたら室蘭を中心としたベイエリア全体の一体的な開発を進めることで、富裕層や訪日外国人から国内ファミリー層までを対象とした多様な観光客の誘致や観光客の滞在・消費を促し、将来的には道南地域を代表する一大レクリエーションゾーンの実現を目指します。

図表17. 祝津・絵鞆エリアの将来イメージ



(2) 地球岬周辺エリア ～自然の雄大さを感じるネイチャーエリア～

観光スポットとして本市で最も知名度の高い地球岬展望台が存在し、市外や国外から多くの観光客が訪れるエリアです。また、断崖絶壁が連なる独特の景観や、イルカ、クジラなどの海洋動物や多様な野鳥が生息する豊かな自然、海水浴やサーフィン等のマリンスポーツも可能な海辺空間は北海道内でも貴重であり、これらの要素を活かした外海遊覧クルーズやスポーツアクティビティ（ウォーキング等）が行われています。

このような自然環境及びスポーツアクティビティに適した環境を活かし、今後は訪れる人に「楽しみ」を提供する「アドベンチャーツーリズム」を推進します。また、それを支えるため、地球岬展望台に、観光客がゆっくりと時間を過ごすことができる空間（飲食・休憩所）や、エリア全体の観光案内拠点として周辺の観光情報を発信する機能（情報発信機能）を整備し、さらなる誘客や消費を促します。

将来的には、当エリアへの移動手段の改善、アクティビティサービスの充実などを図ることで、自然志向の強い観光客をターゲットとしたエリアの活性化、他の地域への周遊促進を目指します。

図表18. 地球岬展望台周辺の将来イメージ



(3) 中央エリア ～近代文化とスポーツを体感するノスタルジックエリア～

室蘭市の中でも歴史が古く、港を活用した物流の拠点として発展したエリアであり、市役所本庁舎を中心に、青少年科学館、図書館、港の文学館、旧室蘭駅舎（観光案内所）、市民美術館など、多くの公共施設が点在しています。室蘭駅北側の入江地区には市立体育館も建設予定であり、スポーツ合宿等、新たな形態の観光ニーズも高まる見込みです。

また、日本遺産「炭鉄港」の構成文化財（室蘭市旧室蘭駅舎、旧三菱合資会社室蘭出張所等）が集積するエリアでもあり、今後は本市独自の歴史・文化や情緒的価値を体験できるエリアとして、知的欲求の高い国内観光客や独自の文化体験を求める訪日外国人等に訴求する観光拠点としての役割を担うことが期待されます。

将来的には、これらの客層をターゲットに据え、室蘭駅や観光案内所等の案内情報の充実化、中心市街地の飲食店や空間の整備、宿泊機能の拡充等を進めることで、他エリアを含めた室蘭全体の周遊観光の基点となることを目指します。

図表19. 中央エリアの空間整備の将来イメージ



第3章 観光振興計画の推進

1. 連携体制のあり方

本計画の基本理念（「稼ぐ観光」）及び将来像を実現するためには、基本的施策及び取組項目を10年間という長期間において計画的・戦略的に展開していく必要があります。

また、本計画は行政だけではなく、観光に関わる様々な実施主体や利害関係者の羅針盤としての性質を有することから、それぞれが観光の担い手として相互に連携しながらも、役割分担に応じて主体性を持って取組を進めるための体制が求められています。

ここでは、本計画に則って観光振興を図るための連携体制のあり方を示します。

（1）室蘭市における関係部課との連携強化

観光への取組は、地域の多様なプレイヤーが参画し、経済、社会、生活環境に大きな波及効果を及ぼすことから、分野別の枠組みを超え、「まちづくり」に関する全市的な計画（室蘭市総合計画）や個別施策（総合戦略、都市計画マスタープラン、立地適正化計画など）と整合・連携する必要があります。本市においても観光振興に向けた連携・協働を円滑に進めるために関係部課間での連携を強化します。

（2）室蘭観光協会の体制強化

今後、本市の観光振興を推進していくうえで、中心的な役割を担う観光協会について、組織として安定的に収益を上げて、十分な要員も確保できるように、市としてサポートしていきます。

（3）関連機関との連携強化

平成21年に本市、室蘭商工会議所、一般社団法人室蘭観光協会が三位一体となって組成した「室蘭観光推進連絡会議」との連携を強化し、観光ツアーや特産物の開発、プロモーション等を推進します。

その他、観光客の志向に応じた様々な観光商品・サービスの開発や情報発信を円滑に進めるため、登別洞爺広域観光圏協議会や炭鉄港推進協議会などと今まで以上に連携を強化します。

（4）民間企業や地域住民が主役となった観光振興の支援

地域に観光客を呼び込む着地型観光を進める上では、実際に観光客に触れ、観光客をもてなす地域住民が主役となることが重要です。本市においても、種々の市民団体（観光ボランティアガイド協議、むろらん100年建造物保存協会、室蘭港を愛する会等）が主体的に観光客を受け入れ、住民の目線で魅力的な観光サービスを提供しています。しかしな

がら、現状はそれぞれの活動に留まっています。

温泉や大規模レジャー施設等、圧倒的な競争力や独自性のある観光資源を有さない本市が「稼ぐ観光」を実現するためには、市内にある様々な観光資源をつなぎ合わせ、市全体として一体的に観光サービスを提供することで付加価値を生み出すような視点が重要です。その際、民間企業や市民団体が中間組織として、情報やノウハウの集約、関係各所との調整、人材育成等の中核的な役割を担うことが求められます。

本市としては、このように観光振興の中核的役割を担う民間企業や市民団体などに対して、人の誘致や人材育成、制度設計など、様々な面から積極的に支援していきます。

2. 計画の管理・評価手法

(1) 評価の考え方

本計画においては、観光振興の目標（基本理念及び将来像）の達成に向けて、その達成状況を客観的に評価するための重要業績評価指標（KPI）を設定します。

前述のとおり、本計画の基本理念を「稼ぐ観光」としていることから、観光消費による経済波及効果の創出を最上位の目標と定め、この経済波及効果に関わる具体的な指標（観光消費単価）を主たる重要業績評価指標（KPI）として設定します。また、副次的に経済波及効果に寄与する指標（観光入込客数や観光地としての誘客ポテンシャル（認知度・満足度）等）も合わせて測定・評価します。

また、平成27年9月の国連サミットで採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」においては、SDGs（Sustainable Development Goals（持続可能な開発目標））として、「誰一人取り残さない」社会の実現を目指して、2030年を期限とする包括的な17の目標と169のターゲットが定められました。これを受け、本市を含む各自治体においても、地方創生に向けた取組の中で、強靱で環境に優しいまちづくりの実現が求められている状況です。特に観光産業・観光開発は、地域の経済力発展の原動力となるだけでなく、多様な文化遺産を守り、環境を保全するなど、「経済・社会・環境」3面の持続可能性の実現に大きく寄与する分野として位置づけられています。

この状況を鑑み、SDGsが定める17の目標のうち、観光消費（経済波及効果）、雇用の創出、文化・遺産の保護等の観点で、特に本計画との親和性が高く、計画実施に伴い達成が期待されるものについて、関連する評価指標を設定するものとします。

図表20. SDGsの全体像（17の目標）



(2) 重要業績評価指標 (KPI)

図表21. 重要業績評価指標 (KPI)

指標名	概要	現状	目標※
観光消費単価 	前期、中期、後期の最終年度に実施するアンケート調査より取得 ※現状は、「稼ぐ観光」具体化実践モデル事業 事業計画 - 室蘭市 - より	日帰り客 3,720 円 宿泊客 16,782 円 (H29 年度)	現状より 1,000 円 以上増加
観光入込客数	毎年実測している独自調査より取得	1,242 千人 (H30 年度)	1,500 千人 以上
観光地としての認知度	前期、中期、後期の最終年度に実施するアンケート調査より取得 (関東圏等の一般の方を対象にネット調査を実施)	—	前期実施より向上
観光客の満足度	前期、中期、後期の最終年度に実施するアンケート調査より取得 大変満足～大変不満までの7段階評価の平均(満足度指数) ※日本交通公社観光年報の同様の調査(全国平均 5.98)	—	6.0 以上
有償観光ガイドの人数 	有償ガイド向けの講習会を実施し、その修了者数	—	20 名以上
歴史・文化の伝承に関する観光商品数  	日本遺産「炭鉄港」や民族共生象徴空間「ウポポイ」を題材とした研修ツアー催行件数(修学旅行誘致件数を含む)	—	10 件/年 以上

※本計画の期間(概ね10年)における達成を目標としますが、「(3)計画の進捗管理」に示す通り、観光消費が地域に及ぼす経済波及効果や社会環境等を踏まえて適宜見直しを行います。

(3) 計画の進捗管理

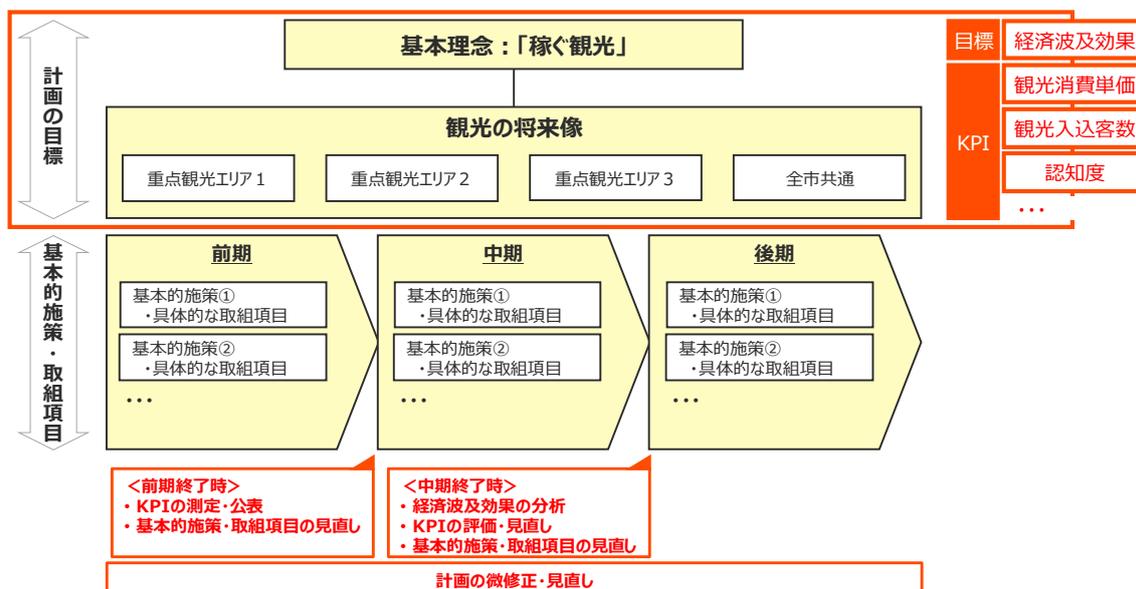
本計画の基本理念である「稼ぐ観光」の実現及び最上位の目標である経済波及効果の創出に向けた進捗状況について、適宜、重要業績評価指標（KPI）を測定・評価するとともに、その結果に応じて、前期、中期、後期の3期に分けて実行する基本的施策や取組項目の管理・見直しを行っていきます。

具体的には、以下に示すように、前期終了時にKPIの測定及び公表を行うとともに、実施状況や社会環境等に応じた基本的施策・取組項目の見直しを行います。また、中期終了時においては、これに加え、観光消費による経済波及効果等を複合的に分析しKPIの評価を行った上で、必要に応じて指標や目標値等の見直しを行う考えです。

なお、経済波及効果については、北海道経済部観光局より提供される分析ツール¹を活用し、北海道全体の産業連関表や本市における観光、経済、財政、人口等の統計データを用いて、観光消費が本市に及ぼす生産誘発額、粗付加価値額、所得誘発額、雇用誘発数等の波及効果を重層的に推計します。

KPIの測定、経済波及効果の推計や状況管理については、観光課を中心に、室蘭観光推進連絡会議等の関係者と共有しながら、必要に応じて基本的施策・取組項目の見直しを行います。さらに、PDCAの観点からも、毎年、各取組の関係者に対し、実施状況や次年度の実施事項などに関するヒアリング等を行いながら、計画の微修正や見直しを実施します。

図表22. 計画の進捗管理のイメージ



¹ 「観光で稼ぐ! ための手引書」における「観光消費による経済波及効果の「見える化」分析ツール」
<http://www.pref.hokkaido.lg.jp/kz/kkd/kasegu.htm>

参考資料

1. 計画策定に向けたヒアリング対象事業者

【市内の関係者】（五十音順）

栗林トラベル・サポート
スターマリン株式会社
株式会社スクラッチオールサービス
地域おこし協力隊
通訳ボランティアガイド
特定非営利活動法人テツプロ
道南バス株式会社
日本製鋼所室蘭製作所
一般社団法人室蘭観光協会
室蘭商工会議所
室蘭市民観光ボランティアガイド協議会
市立室蘭水族館
室蘭まちづくり放送株式会社
一般社団法人むろらん 100 年建造物保存活用会
北海道胆振総合振興局
北海道運輸局室蘭運輸支局
北海道旅客鉄道株式会社（JR 北海道）室蘭地区駅

【市外の観光関連事業者】（五十音順）

クラブツーリズム株式会社
シダックス株式会社
株式会社スペースキー

2. ヒアリングより得られた主な意見

【祝津・絵鞆エリアに関する主な意見】

- ・ 多数のキャンピングカーが訪れているが、お金を落としてもらおう仕組みがない。
- ・ 釣りは室蘭市ならではのアクティビティコンテンツになりうる。特に、大黒島は釣りのスポットで、景色的にも観光スポットとして売り出せるポテンシャルがある。
- ・ 水族館は、市内で数少ない憩いの場であり、存続を求める声が多い。近海で取れる魚をまとめて、道の駅内の大水槽で展示する等のアイデアが面白いのではないかと。周辺施設と連携して一体的な開発を行うことが有効である。
- ・ 屋台村は、せっかくの好立地を活かしきれていない。また、ゆっくりと座って食べられるスペースがない。
- ・ 道の駅は、消費活動を促す場として位置づけ、生鮮食品の直販所や土産物店等を併設してはどうか。室蘭市の商品だけでなく、周辺市町村の特産品も取り扱うとよい。
- ・ 祝津展望台は 360° のパノラマビューで PR に値する。しかし、夏場を除き、トイレが常設されていないという問題がある。
- ・ 冬に客数を増やすためにも、何かイベントがあればよい。
- ・ みたら室蘭周辺で、大型バスの旅行客を取り込めるように、食べる場所を設けて、事前予約で飲食の提供を行うことは可能である。
- ・ みたら室蘭周辺については、まずは人が集まり、長時間滞在できる環境をつくる必要がある。その後、自然と購買機会も増える。また、観光客だけではなく、地元住民に訴求できる施設でなければならない。
- ・ アウトドア施設としては、だんバラやみたら室蘭周辺の立地を見る限り、ファミリー層・初心者層をターゲットとした戦略が望ましい。キャンプ場事業単独では事業化が難しいため、「キャンプ場 x ○○」というように付加価値や独自性を与える必要がある。さらに、まず市内／市外問わず「人が来てもらうイベント」を打ち上げ、認知度を高める必要がある。
- ・ インフラツーリズムは面白い。旅行会社もツアーに組み込む可能性は高い。

【地球岬周辺エリアに関する主な意見】

- ・ 外海からみる自然景勝（ピリカノカ）やイルカ・クジラ等のネイチャーウォッチングは室蘭ならではの要素で価値が高い。
- ・ 観光道路のウォーキングは想定以上に喜ばれるコンテンツである。
- ・ 地球岬展望台周辺は魅力に乏しい。風雨を避ける場所もなく、長時間滞在して消費を促すような仕組みになっていない。また、トイレはあるが数も十分でなく、洗浄の仕組上、回転率も悪い。
- ・ 地球岬に至るまでの道路は大型バス等にとっては道幅が狭い。また、路線バスの最寄

りの停留所も遠く、かなり歩かなければいけない。

- ・ マリンスポーツ（カヤック、サーフィン、SUP 等）で観光客を呼び込みたい。但し、専門のガイドの育成が必要である。

【中央エリアに関する主な意見】

- ・ 空き店舗は、チャレンジショップへの転用といったポテンシャルがあるものの、利用希望者とオーナーを結びつけるコーディネーターやマッチング機能がないことが問題である。
- ・ 宿泊事業者より、スポーツ合宿をさらに誘致したいとの要望があるものの、現状はまだ施設数が足りない状況である。
- ・ スポーツ合宿の誘致は、魅力的な施設が揃っているが、問題は本州からの交通費がかかることが課題である。
- ・ インバウンド客を誘引するには、「食」や「宿」が重要であり、宿や飲食店の拡充が必要である。
- ・ 炭鉄港としての独自の歴史・遺構は観光資源として大変貴重。日本遺産に認定されたのを契機に、石炭・鉄港・港といった構成要素をテーマにした一体的な取り組みを進めるべきである。あわせて炭鉄港等について説明できるガイドの育成・確保が重要である。
- ・ 歴史遺産については、炭鉄港が日本遺産に認定されたこともあり、可能な範囲で、見学できるようにしていきたい。ただし、見学の受入や通訳や案内などは、市民団体等との連携が不可欠である。

【全市共通】

- ・ PR 活動よりも、まずは受入体制の整備を優先すべきである（時刻表の多言語表記等）。
- ・ 道路や路線バス等の交通網が貧弱であること、代替となるタクシーやレンタサイクルといった関連サービスが不足していることが大きな問題である。
- ・ 外国人向けの観光案内において最も問題と感ずるのは交通面である。
- ・ 自然景勝と産業地域を兼ね備えること、起伏に富んだ地形であること、宿泊施設が充実していることなど、映画ロケの適地であり、ロケ誘致やフィルムコミッションが有効である。
- ・ 広域的な旅行商品を手がけられる組織・団体がいないのが課題である。その意味では、大手旅行業者に参入してもらうことは意義がある。
- ・ 国内観光客はビジネス観光として、2, 3 時間で回れるようなコースや、近場のグルメについて、問い合わせがくることが多い。
- ・ 周辺の観光地域と共に知名度を高めることで効果的に観光周知・ブランディングを行うことが必要である。

- ・ 公共施設の Web サイト（特に「だんパラ」、道の駅等）は、もっと見せ方等を工夫したほうがよい。
- ・ ウポポイ（民族共生象徴空間）を国内／国内外の観光客誘致に向けてどう活用するかが重要なテーマである。
- ・ 民間企業が緊密に自治体や観光協会と連携し、地元事業者の参画（飲食店の出店等）やプログラムの付加価値化（ノベルティ付与等）で他地域との差別化することが必要である。
- ・ ボランティアガイドについて、積極的に稼げるサービスや組織体系を考えていく必要がある。
- ・ 地元住民が主体的に参画し、地元民ならではの知識やおもてなしの心・プライドを持ってインバウンド客に接することが必要である。そのためには、地元住民が室蘭市の魅力を理解することが必要で、地元住民を対象にした教育・啓蒙活動に注力するべきである。
- ・ インバウンド客には日本文化を体験する会を実施するため、特技やスキルをデータベース化しておくことで、迅速かつ継続的に体験型サービスを提供することが可能である。

室蘭市観光振興計画

—— 訪れた人だけが出会える おっと!室蘭 ——

(別冊)

令和2年3月

室蘭市



目次

基本的施策	1
1. 祝津・絵鞆エリア ～海に親しむレクリエーションエリア～.....	1
2. 地球岬周辺エリア ～自然の雄大さを感じるネイチャーエリア～.....	4
3. 中央エリア ～近代文化とスポーツを体感するノスタルジックエリア～.....	8
4. 全市共通.....	12
参考 本計画の全体像	19

基本的施策

1. 祝津・絵鞆エリア ～海に親しむレクリエーションエリア～

(1) 取組事業の方向性

■みたら室蘭を中心とするベイエリアの再開発

道の駅「みたら室蘭」を中心として、周辺の室蘭水族館、むろらん温泉ゆらら、エンルムマリナ室蘭等の絵柄・祝津の施設の一体的開発を推進し、一大レクリエーションゾーンを目指します。¹

具体的には、新たに整備する予定の祝津ふ頭周辺については、訪日外国人や富裕層を対象とした宿泊施設や物販施設を誘致するなど、ラグジュアリーな雰囲気ゾーンが理想です。一方、みたら室蘭からむろらん温泉ゆららのエリアは、観光客だけでなく市民にも利用してもらうような機能性を重視したゾーンとします。さらに、パークゴルフの隣の広大な土地には、キャンプ場やバーベキュー場等、アウトドア施設等、飲食・宿泊が可能な機能の誘致を検討します。

室蘭水族館は、老朽化に伴う建て替えが必要ですが、ターゲット客層やみたら室蘭等の他の施設との連携性など、市民等の意見を聞きながら、今後のあり方を検討します。

さらに、観光バスなどの団体旅行客の昼食を提供できるような飲食機能や室蘭市だけでなく、周辺の地域の特産物を購入することができるようなお土産屋等の誘致も検討します。

なお、整備にあたっては、民間の資金やノウハウ等も活用しながら、効率的な方法を検討します。

道の駅「みたら室蘭」



白鳥大橋



¹ ヒアリングより「周辺施設と連携して一体的な開発を行うことが有効である」との意見あり。

■アウトドア施設やマリレジャーの検討

道の駅「みたら室蘭」の周辺には、広大な土地や温浴施設、大規模な駐車場や水道を利用できる場所などがあります。この立地環境を活用して、キャンプ場（コテージ等を含む）やバーベキュー場を整備する等により、長時間の滞在や宿泊を促す空間を目指します。

また、海側での整備と並行し、室蘭岳山麓総合公園（だんパラ公園）等の山側のアウトドア施設（キャンプ場等）の整備を一体的に進めることで、関連サービスの充実化を推進します。

さらに、現在も利用者の多いイルカ・クジラウォッチングや工場夜景クルージング、B&G海洋センターを活用したヨット・カヌー教室等のサービスの拡充を図ることで、当エリアをマリレジャーの拠点と位置付け、スポーツ・アウトドア志向の強い新たな層の観光客の誘致を目指します。合わせて、白鳥大橋の見学ツアー等のインフラツーリズムも推進します。

イルカウォッチング



道の駅「みたら室蘭」周辺



(2) 主な取組概要

事業名	概要
■みたら室蘭を中心とするベイエリアの再開発	
市立室蘭水族館の今後のあり方検討	老朽化している水族館は、今後市民等の意見を聞きながら、今後のあり方を検討します。 ²
飲食スペース及び物販機能の拡充検討	大型観光バスで訪れる多数の観光客に対応した飲食スペース及び物販機能の拡充について検討します。物販は、道南エリア全体の特産物販売拠点となることを目指します。 ³
■アウトドア施設やマリンレジャーの検討	
キャンピングカー向け施設等、アウトドア施設等の検討	オートキャンプ場、RVパークやコテージ等の施設整備の検討、手ぶらで利用できるレンタルサービスや食材の販売店等の誘致などを行います。また、海と山の両方を楽しめるよう、だんパラ公園等の山側にもアウトドア施設の整備を検討します。 ⁴
マリンレジャーの検討	イルカ・クジラウォッチングや工場夜景クルージング等の各種マリンツアー拡充に向けてプロモーションを強化します。また、ヨットやカヌーなどマリンレジャー教室、観光客向けの手ぶら船釣りなどの創設を検討します。
インフラツアーズの推進	国や民間企業と連携し、白鳥大橋を外からあるいは、主塔の上から見学するなどのインフラツアーズを推進します。 ⁵

² ヒアリングより「水族館は市内で数少ない憩いの場であり、存続を求める声が多い」との意見あり。

³ ヒアリングより「直販所や土産物店（周辺の特産品も取り扱う）があればとよい」との意見あり。

⁴ ヒアリングより「多数のキャンピングカーが訪れているが、お金を落としてもらう仕組みがない」/「ファミリー層・初心者層をターゲットとした戦略が望ましい」との意見あり。

⁵ ヒアリングより「インフラツアーズは旅行会社もツアーに組み込む可能性は高い」との意見あり。

2. 地球岬周辺エリア ～自然の雄大さを感じるネイチャーエリア～

(1) 取組事業の方向性

■観光施設の整備の検討

地球岬展望台の周辺は休憩施設が不足しているため、観光客が長時間滞在できずに、観光消費の機会を損なっています。その改善に向けて、飲食や休憩スペース、さらには観光情報発信の拠点となる施設など、民間投資も促し、多くの観光客を受け入れることができる環境整備を検討します。また、観光客が公共交通機関でも来訪しやすいように、地元のバス会社等と協議しながら、路線バスの延伸を図るとともに、大型バスと一般乗用車の駐車スペースの分離、並びに駐車場の有料化も検討します。

加えて、アイヌ語で「美しい・形」を表す自然豊かな景勝地「ピリカノカ」をPRするために、観光案内機能の強化（知名度の高い地球岬を中心に、室蘭市の自然や景観を堪能できるスポットを紹介する等）を図ります。

さらに、今後増加が期待される訪日外国人への対応強化として、JR 母恋駅から地球岬までの多言語案内板の整備、また、上記の施設への多言語パンフレットの設置等を検討します。

地球岬の絶景



トッカリシヨの奇勝



■豊かな自然を活かした体験型観光商品の開発

地球岬、金屏風、トッカリシヨ浜など、地球岬周辺の自然や景観を堪能するための既存のトレッキングコースの紹介に加え、大型客船の乗客や訪日外国人等を対象に、地球岬だけでなく周辺も含めてトレッキングを楽しめるコースの創設等も検討します。⁶

さらに、海側からも断崖絶壁が連なる大自然を堪能できるように、新たなマリニアクティビティを検討したり、トレッキングとクルージングをセットにした新しいサービスを提供するなど、独自で豊かな本市の自然景観を楽しめるサービスを検討します。

地球岬に設ける情報案内施設においては、これらのアクティビティサービスの紹介・案内等も行います。

トレッキング（イメージ）



シーカヤック（イメージ）



⁶ ヒアリングより「外海からみる自然景勝（ピリカノカ）やイルカ・クジラ等のネイチャーウォッチングは室蘭ならではの要素で価値が高い」との意見あり。

(2) 主な取組概要

事業名	概要
■観光施設の整備の検討	
地球岬展望台 情報案内施設 整備の検討	地球岬展望台に、観光客が雨風をしのいで休憩でき、飲食や買物などでもできるような空間、景勝地「ピリカノカ」のPRなど観光情報発信の拠点となる施設等を検討します。 ⁷
路線バスの延 伸	公共交通機関での移動がしやすくなるよう地元バス会社等に協力を要請し、路線バスの延伸を進めます。大型バスと一般乗用車の駐車スペースを分離し、有料化とすることで新たな利益を確保します。 ⁸
■豊かな自然を活かした体験型観光商品の開発	
自然を活かし た新たなアク ティビティの 商品の検討	観光道路周辺などの自然を堪能できるアクティビティのプロモーション強化、訪日外国人対象のトレッキングコース創設を進めます。シェアサイクル等とトレッキングを組み合わせることや、荷物預かりシェアリングサービス等を検討します。 ⁹
新たなマリン スポーツ・アク ティビティ商 品の検討	ヨットツアー等のマリンアクティビティに関するサービスを検討します。既存のクルージングツアーとトレッキングツアーを連携させる等、陸・海の双方から地球岬周辺の自然を堪能できるサービスを検討します。 ¹⁰

⁷ ヒアリングより「地球岬展望台周辺は、長時間滞在して消費を促すような仕組みになっていない。また、トイレも少ない」との意見あり。

⁸ ヒアリングより「外国人向けの観光案内において最も問題と感じるのは交通面」との意見あり。

⁹ ヒアリングより「観光道路のウォーキングは喜ばれるコンテンツである」との意見あり。

¹⁰ ヒアリングより「マリンスポーツで観光客を呼び込みたい」との意見あり。

事例コラム 【ベイバイク】

横浜市と株式会社 NTT ドコモは、横浜都心部の活性化や観光振興などに向けて、平成 26 年 4 月から「横浜都心部コミュニティサイクル事業 baybike（ベイバイク）」を開始しています。

ベイバイクは、電動アシスト機能付きの自転車による有料のレンタサイクル事業です。利用者は、パソコン、スマートフォン、携帯電話から無料で会員登録を行うことができます。会員は 30 分間 150 円（税抜）でベイバイクを利用することで、クレジットカードで決済されます。盗難防止、位置情報やバッテリー残量の把握のため、自転車には GPS 機能等が搭載されています。横浜都心部には、令和元年 9 月 30 日時点で、約 800 台の自転車、86 箇所のポート（無人の貸出返却場所）があります。登録者数は約 10 万人、1 日あたりの利用者数は約 2,400 回/日であり、両者とも増加しています。

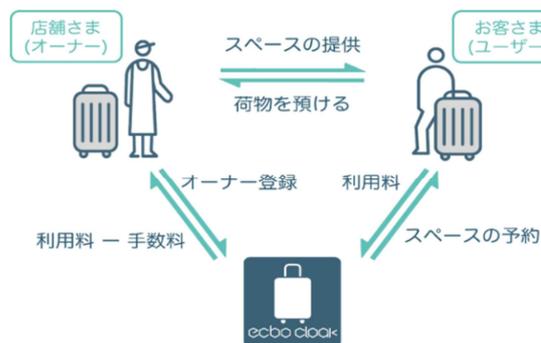


事例コラム 【エクボクロック】

ecbo 株式会社は、「荷物を預けたい人」と「荷物を預かるスペースを持つお店」をつなぐシェアリングサービス「ecbo cloak（エクボクロック）」を提供しています。手ぶらで観光したい人と、遊休スペースを有効活用して収益を上げたい店をつなぐ仕組みであり、荷物を預かる店は、新たな設備投資をする必要がなく、集客につながる可能性があります。

エクボクロックの利用者は、スマートフォンのアプリを通じて荷物の預け先を探し、事前予約を行います。利用料金は、最大辺 45cm 未満の荷物は 400 円（税込）/日、45cm 以上の荷物は 700 円（税込）/日です。荷物を預かる店は、無料で加盟することができ、利用料金から手数料を差し引いた金額を得ることができます。また、こうしたシェアリングサービスは、コインロッカーの代替機能を果たしますので、観光地にとっても旅行者の受け入れ体制の充実につながります。

（出所：ecbo 株式会社ホームページに基づき作成）



3. 中央エリア ～近代文化とスポーツを体感するノスタルジックエリア～

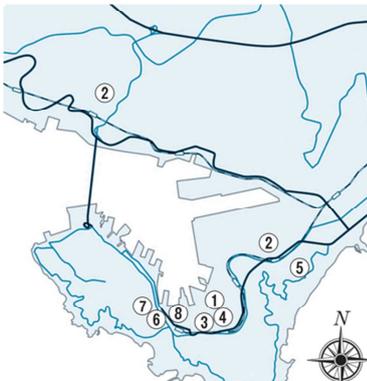
(1) 取組事業の方向性

■「炭鉄港」に係る歴史・文化遺産を活用した観光商品の開発

令和元年5月20日に日本遺産に認定された“本邦国策を北海道に観よ！～北の産業革命「炭鉄港」～”としての本市独自の歴史・文化遺産を活用し、体験型観光（コト消費）を志向する観光客に訴求するための観光商品を開発します。

またそれを下支えするための環境整備として、市内の歴史・文化遺産や関連団体・事業者・イベントの整理、ガイド・コンシェルジュの育成、市外に向けた情報発信・プロモーション活動を進めます。

室蘭市内の構成文化財

<p>①旧火力発電所 (近代化産業遺産) 1909年、鉄鋼生産に必要な電力を自社発電するため、日本製鋼所構内に建設された煉瓦造りの火力発電施設。</p>	<p>②恵比寿・大黒天像 1909年に輪西製鐵場で初めて製造された鉄を用いて製作。高炉火入れを記念し、関係者に贈呈された。</p>	<p>③瑞泉閣 (近代化産業遺産) 1911年、皇太子時代の皇太子の大正天皇の視察に合わせ、日本製鋼所構内に宿泊所として建設。</p>	
<p>⑧室蘭市 旧室蘭駅舎 (国登録有形文化財) 1912年に寄棟造りで建設され、白漆喰の外壁は明治の洋風建築の面影を残す。現存する木造駅舎では道内最古である。石炭積出の最終駅。</p>	<p>室蘭の構成文化財</p> 		<p>④日本製鋼所 室蘭製作所製造 複葉機エンジン「室0号」 (市指定文化財) 1918年に、陸軍からの受注により、製作した日本最初の航空機エンジン。</p>
	<p>⑦旧北炭室蘭 海員倶楽部 1926年、北炭の専務取締役だった井上角五郎の別荘跡地に山荘風の意匠で建築された北炭の海員倶楽部。</p>	<p>⑥旧三菱合資会社室蘭出張所 1914年に建築。空知から運ばれた石炭の積み出しや分析を行う事務所として使用された。現在は市民出資による保存団体が所有。</p> 	

※構成文化財には、一般公開されていないものがあります。

※旧室蘭駅舎の隣接地には、今年、蒸気機関車D51を移設する予定です。

■文化・教育施設と連携した中心市街地の観光消費の促進

当エリアには宿泊施設や飲食施設が集中することから、特に訪日外国人を対象としたエリア内での消費を促すようなプロモーションの強化を行います。また、商店街の空き店舗等を有効活用し、民間による飲食（特に、バルのような訪日外国人が利用する飲食店）、宿泊関連施設（シェアリングサービス）など、必要に応じて関係機関と連携しながら、エリア一体的に飲食・宿泊機能を高め、観光客を受け入れるための環境整備を検討します。

さらに、エリア内の複合的スポーツ施設（今後整備される市立体育館等）や文教施設（環境科学館、市立図書館、室蘭工業大学等）を軸に、スポーツ・教育イベントと連携した観光商品の開発やプロモーション活動を進め、大学のゼミ・サークル、スポーツクラブ、さらにはプロスポーツチームやトップアスリートなど、新たな層の観光客の開拓を図ります。

中心市街地



入江運動公園



(2) 主な取組概要

事業名	概要
■「炭鉄港」に係る歴史・文化遺産を活用した観光商品の開発	
官民連携による歴史・文化観光商品の開発・PR	市民団体等と連携して、市域全体を空間的要素と時間的要素を統合させたエコミュージアムとし、歴史・文化を体験できる観光商品の開発を進めます。「炭鉄港」は、市内関係者と「(仮称) 室蘭市炭鉄港推進協議会」を立ち上げ、一体的なPRを行います。 ¹¹
歴史・文化遺産を紹介する観光ガイド・コンシェルジュの育成	観光客に歴史・文化遺産の魅力を伝える地元の観光ガイド・コンシェルジュ育成に向け、教育・研修活動を行います。さらに、コンシェルジュ育成によりサービスの付加価値を高め、有償の「稼ぐ」サービスへの転換を図ります。 ¹²
■文化・教育施設と連携した中心市街地の観光消費の促進	
回遊・滞在を促すプロモーションの強化	中央エリアについて観光客の周遊を促すプロモーションの強化(多言語案内看板やパンフレットの充実)や安心して周遊できるような空間整備のあり方を関係部署と連携しながら検討します。
スポーツ・文教施設を活用した誘客プロモーション	都市部のスポーツクラブ、大学、プロスポーツ等を対象に、スポーツ施設を核としたスポーツツーリズムの実現に向けたプロモーション活動を行います。また、関連イベントにおいて、地元住民・事業者等にイベントの効果等を説明し、参入・関与を促します。 ¹³



¹¹ ヒアリングより「日本遺産に認定されたのを契機に、石炭・鉄港・港といった構成要素をテーマにした一体的な取り組みを進めるべき」／「炭鉄港が日本遺産に認定されたこともあり、可能な範囲で歴史遺産を見学できるように検討したい」との意見あり。

¹² ヒアリングより「炭鉄港等について説明できるガイドの育成・確保が重要」との意見あり。

¹³ ヒアリングより「宿泊事業者より、スポーツ合宿をさらに誘致したい」との意見あり。

事例コラム 【分散型ホテル事例（大津市：商店街ホテル 講 大津百町）】

「株式会社 木の家専門店 谷口工務店」と「株式会社自遊人」は、滋賀県大津市中心商店街の7棟の古い町家を改修し、「商店街ホテル 講 大津百町」を2018年8月に開業しています。木造注文住宅を手がける谷口工務店が事業主体となり、古い町家を丁寧に改修するとともに、人気温泉宿「里山十帖」などを運営する自遊人が運営をしています。

「商店街ホテル 講 大津百町」のコンセプトは、「商店街を観光資源化することにより、生活圏外の人々の消費を取り込もう」です。フロント、ダイニング、宿泊室を備えた1棟と宿泊棟6棟は、旧東海道沿いの中心商店街に散在し、分散型ホテルとなっています。断熱や防音など重視した改修がなされ、室内は個性を活かした和モダンな空間となっています。

ホテルでは事前予約制で朝食のみ提供し、夕食は近隣の飲食店を紹介しています。さらに、宿泊料金から1泊1人あたり150円を大津市商店街連盟に寄付する仕組みを整え、地域活性化に貢献するホテルとなっています。

（出所：「商店街ホテル 講 大津百町」ホームページに基づき作成）



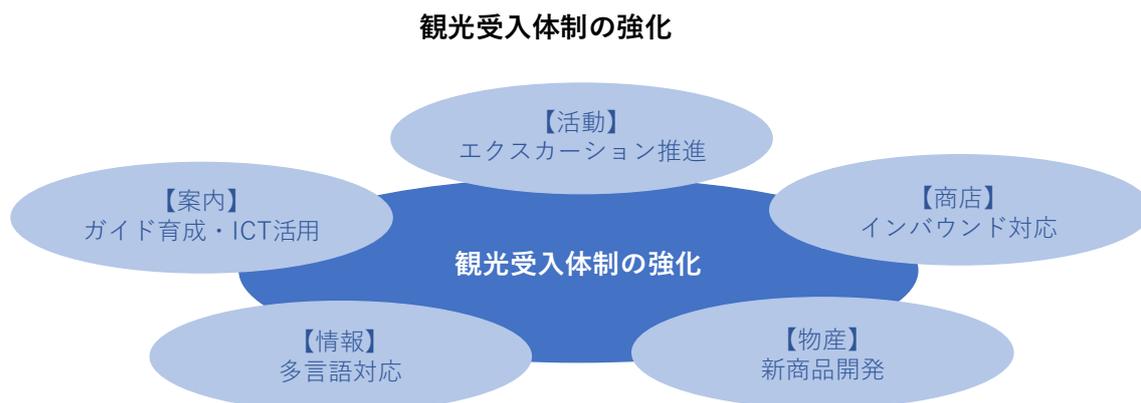
4. 全市共通

(1) 取組事業の方向性

■観光受入体制の強化

本市の観光入込客数は、近年 120 万人前後で推移しており、道外客が増加傾向にあります。国内外からより多くの観光客を集客し、市内での消費拡大につながるよう、観光受入体制を強化します。¹⁴また、地元住民・団体など、本市の観光振興に向けて個別に取り組んでいる個人・組織の活動に対する支援を進めるとともに、さらなる受入体制の強化や魅力向上に向けた民間主導の中核的組織の組成を促します。

道内の訪日外国人の増加に伴い、日本遺産「炭鉄港」の構成文化財やアイヌ文化にまつわる景勝地を活用したエクスカーション（体験型見学会）のニーズも高まっています。インバウンド客も見据えたガイドサービスの高度化、多言語対応などを通じて、国内外の観光客の立寄り・滞在を促進します。



¹⁴ ヒアリングより「PR 活動よりも、まずは受入体制の整備を優先すべき」との意見あり。

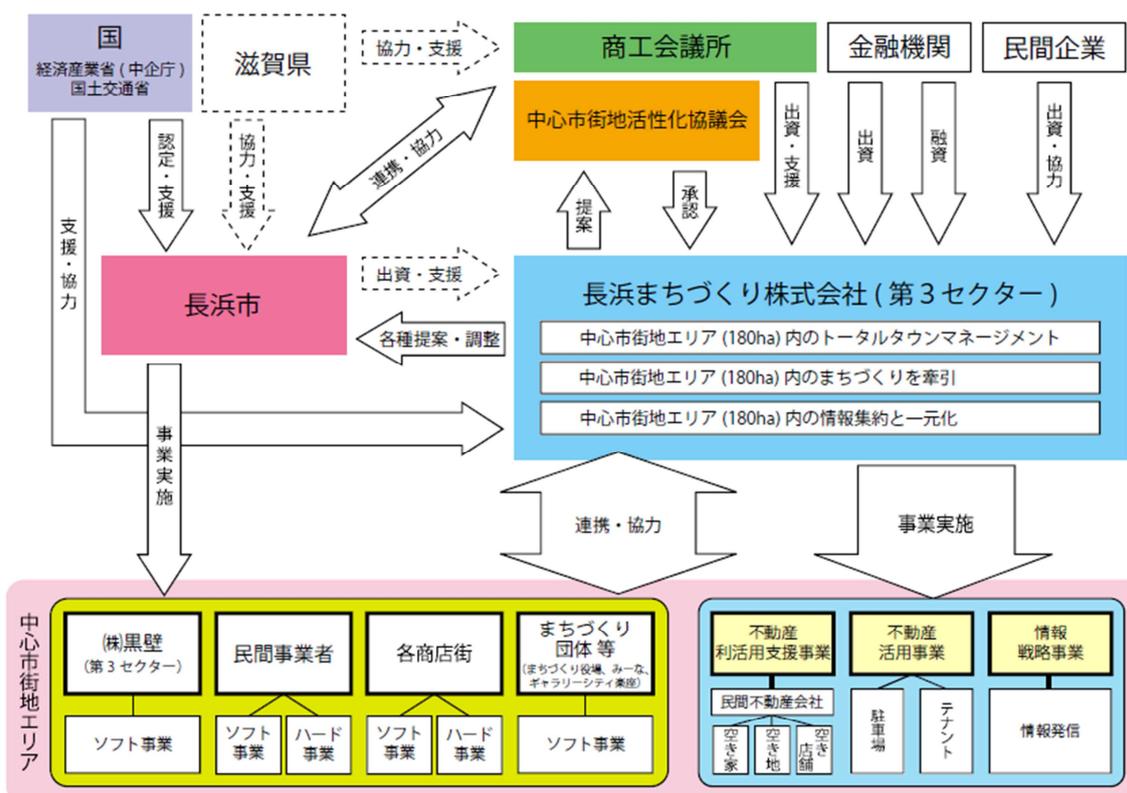
事例コラム 【タウンマネジメント事例（長浜市：長浜まちづくり株式会社）】

長浜市は、昭和 59 年に策定した「博物館都市構想」に基づき、地域の歴史文化を大切にして、歴史的建造物や町家の再生、ミュージアムの創設、情緒ある街並みの形成などを進めてきました。その結果、黒壁スクエア周辺だけでも年間 200 万人の来街者を集める観光都市になっています。

長浜市では、中心市街地のタウンマネジメントに関する事業を営むことを目的として、平成 21 年 8 月に第三セクター「長浜まちづくり株式会社」を設立しています。平成 31 年 3 月末現在、10 名の役員（非常勤）と 5 名の正規職員が、タウンマネジメント、町家再生バンクの運営、家屋・土地の活用、暮らし案内所の運営、通行量・空き店舗調査などを行っています。長浜市、長浜商工会議所、金融機関、民間事業者が出資した「長浜まちづくり株式会社」は、長浜市中心市街地活性化基本計画で定めた約 180ha の中心市街地エリアが抱える課題に関して、関係組織や多様な人々と連携しながら、解決に向けた取り組みを行っています。

（出所：長浜まちづくり株式会社ホームページ、経営状況等（長浜まちづくり株式会社）、第三セクター等経営健全化方針（長浜市））

長浜まちづくり株式会社の事業推進体制図

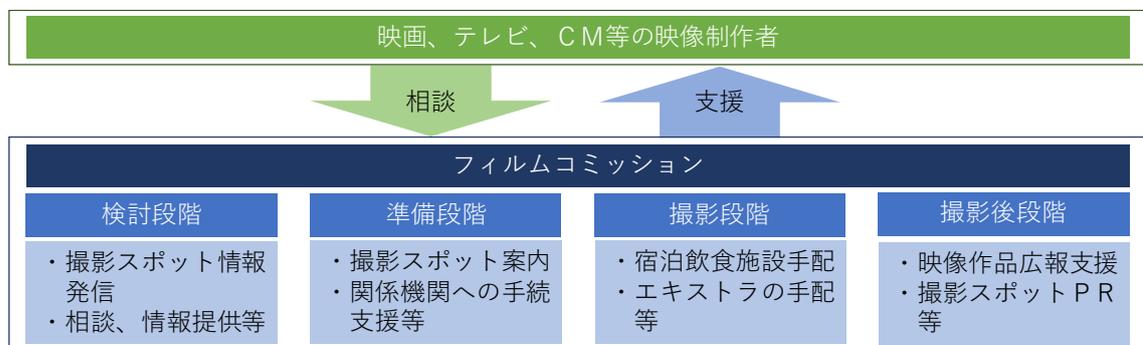


■フィルムコミッション促進に向けた環境の検討

本市は、都市景観から自然景観まで、様々な景観を備えています。夜景が有名な工場群、昭和の面影を残す市街地、変化に富んだ海岸地形などがあり、クリエイターにとって「絵になるまち」となっています。これまで、様々な映画、ドラマ、CMのロケ地として利用されており、映像を通じて国内外に本市が紹介されており、大きな経済波及効果を生んでいます。

撮影場所の紹介、撮影の誘致、撮影の支援などを行うフィルムコミッション機能を確保し、映像制作者に対する支援体制を整えます。積極的にロケの誘致を進め、映画やドラマのファンをはじめ観光客を集めます。¹⁵

フィルムコミッションの機能



¹⁵ ヒアリングより「映画ロケの適地であり、ロケ誘致やフィルムコミッションが有効である」との意見あり。

■広域連携による観光促進

本市は、登別市、伊達市、豊浦町、洞爺湖町、壮瞥町、白老町とともに「北海道登別洞爺広域観光圏協議会」を構成して、広域連携による情報発信や観光コースの提案を行っています。

登別洞爺広域観光圏内の白老町では、令和2年4月に民族共生象徴空間「ウポポイ」が誕生し、修学旅行客、インバウンド客などを集めるものと期待されています。登別洞爺広域観光圏の構成市町村と連携し、機能分担を考慮しつつ、効果的な集客に努めます。

さらに、日本遺産「炭鉄港」について、関連自治体と組成された炭鉄港推進協議会と連携しながら、炭鉄港のプロモーション等を実施していきます。

北海道登別洞爺広域観光圏協議会ホームページ

西いぶりの魅力

見たい
知りたい
体験したい
食べたい
買いたい
くつろぎたい

モデルコース
イベント情報
アクセス
お知らせ

関係団体リンク

- 一般社団法人 白老観光協会
- 一般社団法人 登別観光協会
- 一般社団法人 室蘭観光協会
- NPO法人 だて観光協会
- 一般社団法人 洞爺湖温泉観光協会
- NPO法人 洞爺まちづくり観光協会
- NPO法人 豊浦観光ネットワーク
- NPO法人 そうべつ観光協会

西いぶりの魅力

地球体感・西いぶりの旅へようこそ。

息づく地球に、心わきたつ。

幾多の噴火で生まれた勇壮な活火山、こんこんとわき出る温泉、優雅に静けさを湛える洞爺湖―。北海道南西部に位置し、7つの市町からなる西いぶりは、活発な地球活動がもたらした恩恵を全身で体感できるエリアです。北方先住民族であるアイヌの人々は、そうした西いぶりの自然の恵みに感謝を捧げ、悠久の時をかけて独自の生活様式を築きあげてきました。彼らの歴史と文化は現在もおこの地に生き、神秘的な情緒を醸し出しています。躍動をつづける大地へ、先住アイヌ民族の魂が宿る聖域へ。地球体感・西いぶりの旅が、いま始まります。

温泉 → ジオパーク → 北方先住民族 アイヌ →

地球の熱に包まれる。ここに、地球を感じる。地球への感謝、いのちへの感謝。

西いぶりの魅力を動画でご紹介！

(出所：北海道登別洞爺広域観光圏協議会ホームページ <http://westiburi.jp/>)

■官民連携による観光プロモーション戦略の立案

本市では、室蘭観光協会や室蘭商工会議所と連携して、室蘭観光推進連絡会議を組成し、オール室蘭で情報発信を行っています。観光人材を充実させて、官民連携による観光プロモーション体制を強化し、戦略的にプロモーション活動を展開します。

さらに、大手旅行代理店や人気旅行予約サイトと連携した効果的な観光プロモーション活動の展開、同会議が運営する観光情報サイト「おっと！むろらん」の充実を通じて、観光客の増加につなげます。

さらに、室蘭工業大学の留学生等の市内在住の外国人の力も借りながら、SNSを活用した口コミ情報の発信など、インバウンドに向けた情報発信の強化にも取り組みます。

おっと！むろらん 室蘭の観光情報サイト (<http://muro-kanko.com/>)



(2) 主な取組概要

事業名	概要
■観光受入体制の強化	
体験型見学会の受入体制の充実	日本遺産「炭鉄港」の構成要素となる歴史的建築物や、トッカリシヨ浜等の景勝地等の地域資源を活かせるように室蘭観光協会等と連携し、体験型見学会の開催を支援します。
ガイドサービスの高度化	室蘭市民観光ボランティアガイド協会等と連携して、観光ガイドの研修を行います。インバウンド客に対して音声案内の仕組みを整えるなど、情報通信技術を活用して、ガイドサービスの高度化を図ります。 ¹⁶
観光案内情報の多言語化	スマートフォンやタブレットでの閲覧を想定し、Web媒体の多言語化を進めて、インバウンド客の市内周遊や滞在を促します。
飲食・土産店におけるインバウンド対応	室蘭観光推進連絡会議が室蘭商工会議所と共催している「インバウンド客おもてなし講座」を、継続的に実施します。キャッシュレス決済に親しんでいる訪日外国人に対応するため、スマホ決済の導入を促します。
室蘭特産品の開発支援	観光客等への土産となる室蘭特産品の開発について、旅行客のニーズ提供や市内関係機関をマッチングするなどのコーディネート等、民間企業における新しい特産品開発の支援を行います。
■フィルムコミッション促進に向けた環境の検討	
室蘭フィルムコミッション機能の確保	室蘭市、室蘭観光協会、室蘭商工会議所、市民が連携して、「(仮称)室蘭フィルムコミッション」の機能を備えます。
撮影スポット等のデータベース化	市民や市内事業者とともに、撮影スポットを写真や映像で紹介するデータベースを作成します。映像所有者に協力を求めて、これまで室蘭市内で撮影した映画、ドラマ、CMの一部をサイト上で紹介します。
スポット案内や各種手続・申請等のワンストップ化	フィルムコミッションがロケ支援のノウハウを蓄積し、ワンストップで撮影を支援する体制を整えます。撮影許可の申請手続等を行うコアメンバーを確保し、ロケがしやすいフィルムコミッションを目指します。
撮影時のサポート体制の強化	フィルムコミッションは、撮影時に立会い、ロケ現場の支援を行います。撮影班の宿泊施設の確保、ロケ弁や市民エキストラの手配などにも協力します。

¹⁶ ヒアリングより「ボランティアガイドについて、積極的に稼げるサービスや組織体系を考えていく必要がある」との意見あり。

■広域連携による観光促進	
ウポポイ（民族共生象徴空間）と連携した観光商品の開発	国内外から民族共生象徴空間「ウポポイ」に来る観光客を本市内に誘導できるよう、アイヌ文化に関連させた観光商品の開発や、エコツアーの企画提供を行います。 ¹⁷
周辺観光地域と連携した観光ツアー（モデルコース等）の検討	「ウポポイ」開設に伴い、期待される修学旅行客を対象に、本市内滞在を促すことができるよう「炭鉄港」の歴史を学習できる研修ツアーを企画し、大手旅行代理店等に提供します。 ¹⁸
炭鉄港推進協議会との連携	炭鉄港の推進にむけて、共同プロモーションの実施やイベントの開催など、炭鉄港推進協議会と連携しながら、炭鉄港の認知向上等に向けて積極的に取り組みます。
■官民連携による観光プロモーション戦略の立案	
プロモーション推進組織の強化	室蘭観光のプロモーション活動を推進する組織として、官民が連携した室蘭観光推進連絡会議を継続して運営します。「地域おこし協力隊」等の国の制度を活用して観光人材を確保し、組織体制を強化します。
大手旅行代理店との連携	多くの旅行者が閲覧するサイトやソーシャルメディアを通じて、「炭鉄港」等の室蘭の個性的な地域資源を紹介し、テーマ性の高いツアーの造成や修学旅行・教育旅行の誘致につなげます。
プロモーションサイトの充実（おっと！むろらん等）	室蘭観光推進連絡会議が運営する観光情報サイト「おっと！むろらん」に関して、季節に応じた情報や外国語情報を充実します。SNSによる情報発信等を通じて、プロモーションサイトの充実を図ります。 ¹⁹
SNSを活用した情報発信	留学生等市内在住の外国人に様々なツアーに参加してもらい体験談を発信してもらおう等、SNSを活用した情報発信の強化を行います。観光施設等のSNSサイトの充実等、Webを活用した情報発信強化を進めます。

¹⁷ ヒアリングより「ウポポイを観光客誘致に向けてどう活用するかが重要」との意見あり。

¹⁸ ヒアリングより「周辺の観光地域と共に知名度を高めることで効果的に観光周知・ブランディングを行うことが必要」との意見あり。

¹⁹ ヒアリングより「公共施設のWebサイトは、もっと見せ方等を工夫したほうがよい」との意見あり。

参考 本計画の全体像

